

情報社会の課題

中澤 靖夫

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長



わが国における時代の潮流の一つは、農業革命・産業革命に匹敵する「情報革命」の時代といえる。情報が石油資源と同等かそれ以上の価値を持ち、情報を日常的に自在に扱う多くの企業や市民が活躍する時代である。医療機関でも、院内における電子カルテ・PACS・HIS・RISの利用が進むとともに、会議や各部署間におけるコミュニケーション手段として活用されている。院外では病・病連携、病・診連携の中、万全なセキュリティーの下で患者情報の電子化が行われている。多くの診療所では高額なMRIを持つことができない。そのような診療所では、患者さんのMRI検査を大規模病院・大学病院にアクセスし、インターネットで予約を入れることができるようになってきている。患者さんや医療機関の効率化を考えながら、医療情報技術が活用されている。

現代社会のあらゆる分野で情報技術が活用されている。第23回参議院議員選挙が7月に行われたが、政治活動の中に初めてインターネットでの選挙活動も導入された。近い将来、インターネットでの投票もできる日が来るのではないかと考えている。また情報の生産・加工処理・流通がリアルタイムで行われている。放射線画像分野では、依頼科が求める異常所見画像の計測やカラーマッピング、3D画像・4D画像をリアルタイムで作成し、診療科の外来診察室や手術室に配信している。このように、現代社会は情報活用によるグローバルネットワーク社会である。テレビ会議・スカイプ会議・ツイッター・ラインなどを利用して、リアルタイムで情報交換を行っている。いつでも、どこでも、何でも、誰でもが、オンデマンドで情報交換できる情報革命時代であるといえる。

高度な情報社会というのは便利ですばらしい社会であるが、それに伴って課題も生まれている。第一の課題は、作為的な情報による社会の混乱である。最近では、カネボウの美白化粧品を使用した方々が、皮膚の病気になったということが報道されている。そのようなメーカー主導による作為的な情報によって社会が混乱する現象も生まれている。第二の課題は、情報の信頼性である。例えばシリアで化学兵器が使われたと報道されている。「使ったことは確かだ」と国連も言っているが、シリア政府が使ったのか、反体制側が使ったのか、どちらなのかという信頼性が問われている。アメリカ政府は、シリア政府が使ったということで空爆を実施しようとしているが、情報の信頼性がきちっと捉えられないと大きな過ちにつながっていく可能性がある。第三の課題は、サイバーテロによる企業・国家機密文書的不正書き換え、窃盗である。アメリカと中国がこれについての話し合いを行っている。アメリカの某企業が公開した資料によると、アメリカのステルス戦闘機が、中国の人民解放軍のある部隊から集中攻撃を受けて、国家機密が盗まれていると訴えている。第四の課題は、情報格差による社会的・経済的格差の増大である。証券会社は24時間365日、寝る暇もなく株価の変動を伝えている。トヨタ自動車は、1円の円安で1年間約350億円の利益が出ると言っている。情報の使い方によって利益を得る人々、そうでない人々がいるわけで、情報の格差が大きな問題になっている。第五の課題は、携帯電話依存症・インターネット依存症が問題になっている。携帯電話依存症の人は、食事ができない、睡眠ができない、会社に勤めることができなくなるといわれており、WHOも新しい病気として認定する方向で検討している。本会はこのような高度な情報社会の課題に対して、情報を主体的に正しく判断し、活用する能力が身に付く生涯教育が必要であると考えている。